

メッセージアプリ

昔から有って、iPhone・iPad・Mac・Apple Watchで使えるが、分かりづらかったので調べました

1. iMessageとは
2. 他のメッセージ
3. 仕組み



1. iMessageとは

Apple製品間でメッセージのやりとりができる、Apple独自の機能

Apple IDや電話番号によりメッセージを送受信

SMSのような1通あたりの送料がかからない

文字数の制限がなく、写真や動画を送ることもできる

LINEスタンプのようなステッカーやアニメ文字などを使ったコミュニケーションも可能

Androidスマホへ送信した場合は自動的にSMSかMMSで送られる

① 既読になった時間もわかる

既読した時間を送信相手に知られたくなければ、既読表示のオン・オフを自由に設定できる

② メッセージをiCloudに保存できる

iPhoneのストレージ容量が減らない

③ 動画や長文のメッセージも送信できる

④ Wi-Fiが無い場合はパケット消費が大きい

画像ファイルをオリジナルのままの大きさに送ってしまう

2. 他のメッセージ

SMSとは

ショートメッセージサービスと呼ばれる、短文のメッセージサービス

携帯電話番号を宛先として送れるため、機種変更の際にメールアドレスが変更になった相手にもメッセージを送信できる

従来は70文字（全角）まで iPhone5以降は670文字（全角）まで

個人認証に使われることも多く、SMSにパスワードを送信する「SMS認証」が一般的に

1～70文字以内が約3円で、文字数に応じて約3円ずつ加算されていき、最大の670文字の場合は約33円 受信料無料

MMSとは

メディアメッセージングサービスと呼ばれる、キャリア携帯会社が提供している独自のメッセージサービス

「@au.com」 「@softbank.ne.jp」のみで、2キャリアのドメインがついた独自のメールアドレス

データ通信料のみでWi-Fiの環境下であれば無料でメッセージを送信できる

既読表示機能はないため、メッセージを相手が開封したかどうかの確認はできない

3. 仕組み

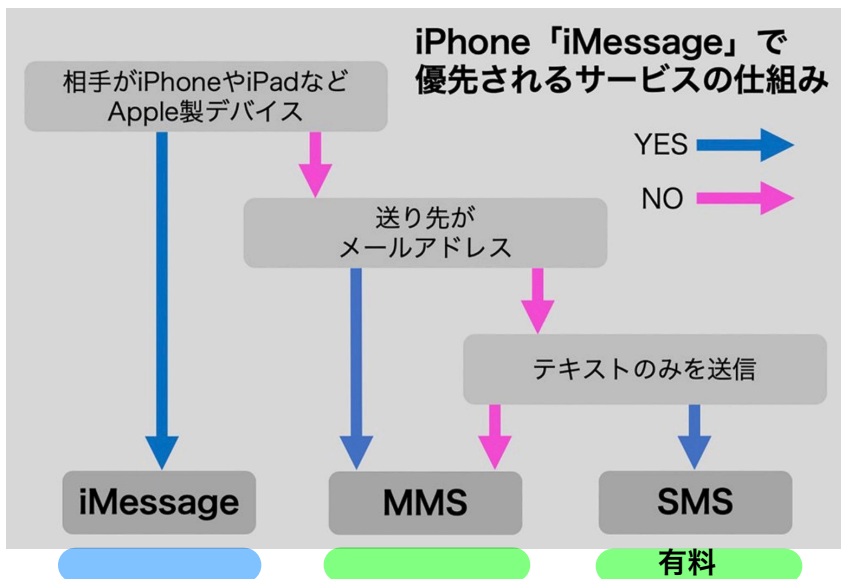
相手の端末がApple製品でないと自動的にメッセージ機能が選択される

宛先がメールアドレスであればMMS、電話番号であればSMSが送信

さらに、電話番号を宛先にした場合でも、テキストのみの送信でなかった際は、MMSへ自動的に切り替えられる

iMessageはメッセージの吹き出し **青色**

相手がSMSやMMSは吹き出し **緑色**、件名の下に表示でもアプリ上で見分けることが可能



iMessage

- ・吹き出しが青色
- ・メッセージ上部・入力欄に「iMessage」と表示
- ・入力欄に、「件名・iMessage」と表示
- ・入力欄の左部ボタンが活性化



SMS/MMS

- ・吹き出しが緑色
- ・メッセージ上部・入力欄に「SMS/MMS」と表示
- ・入力欄に、「SMS/MMS」と表示
- ※「件名」入力欄が表示されない
- ※MMS非対応時は、添付ボタンが非活性